

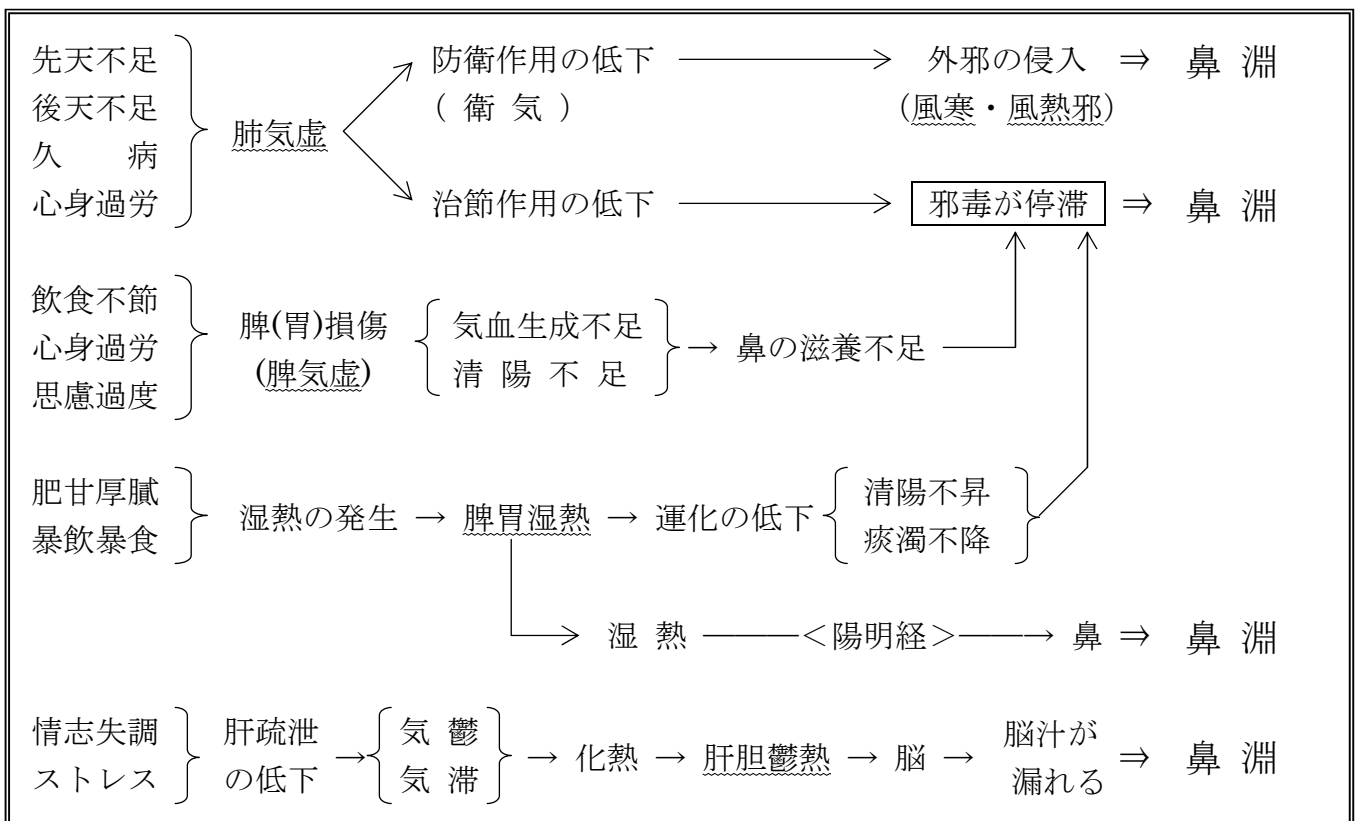
第4講 『鼻閉・鼻汁』

:「鼻淵」と呼ばれる。鼻詰まり、膿のような生臭い鼻汁、嗅覚の減退など。また「脳漏」「脳滲」とも呼ばれる。

【別称】 { 「鼻淵」「脳漏」「脳滲」・・・急・慢性副鼻腔炎（蓄膿症）
 「傷風鼻塞」・・・急性鼻炎
 「鼻塞」・・・慢性鼻炎
 「鼻黴」・・・アレルギー性鼻炎

【分類】 { 外感性 : 風寒・風熱表証 等
 内傷性 { 実 : 肝胆鬱熱、脾胃湿熱（脾経湿熱）
 虚 : 肺気虚、脾気虚

【病因病機】



【 弁証の要点 】

- (1) 発病 { 新病 - 肝胆鬱熱、脾胃湿熱
久病 - 肺気虚、脾気虚
- (2) 鼻汁の質 { 濃い、白色、無臭 - 肺気虚、脾気虚
非常に濃い、黄色、有臭 { 特に強い - 肝胆鬱熱
有 臭 - 脾胃湿熱

【 症状と処方例 】

* 対症選穴（基本穴）：

	経絡	意義	取穴部位
迎香	大腸経	通利鼻竅	鼻孔の外 5 分、鼻唇溝中に入る。
印堂	奇経		神庭穴の下方、眉間中央陥凹部に入る。
合谷	大腸経	四総穴	第 1・2 中手骨底間の下、陥凹部、第 2 中指骨よりに入る
風池	胆経	顔面・五官病常用穴	乳様突起下端と瘻門穴との中間で、後髪際陥凹部に入る

1. 肝胆鬱熱

[症 状] 鼻汁は黄色で粘稠、量が多く、膿のような臭いがする、鼻閉、嗅覚減退。

頭痛または偏頭痛、咽頭部の乾き、めまい、耳鳴り、難聴、舌紅苔黄、脈弦数。

[処方例]

	経絡	意義	取穴部位
太衝	肝経	清肝胆火熱	足背にあり、第 1・2 中足骨底間の前、陥凹部に入る。
風池	胆経		乳様突起下端と瘻門穴との中間で、後髪際陥凹部に入る
印堂	奇経	通利鼻竅	神庭穴の下方、眉間中央陥凹部に入る。
上星	督脈		前髪際をること 1 寸、正中線上に入る。
迎香	大腸経		鼻孔の外 5 分、鼻唇溝中に入る。

2. 脾経湿熱

[症 状] 鼻汁は黄色、粘稠で有臭。食欲不振、悪心嘔吐、皮膚・痒感、痰が多く質が濃く黄色、口苦、小便短赤、泥状便、黄色粘稠有臭の帯下、舌紅苔黄膩、脈濡数・滑数。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
対症選穴	***	****	* * * * * * * * * *
陰陵泉	脾 経	祛 湿	脛骨内側顆の下、脛骨内側の骨際、陥凹部
豊 隆	胃 経	祛 痰	外果の上 8 寸、条口穴の外方に一筋へだてた陥凹部
章 門	肝 経	健脾利湿	第 11 肋骨前端下際
合 谷	大腸経	清陽明熱	第 1・2 中手骨底間の下、陥凹部、第 2 中指骨より
曲 池	大腸経		肘を屈曲してできる肘窩横紋の外方で、上腕骨外側上顆の前

3. 肺気虚

[症 状] 鼻汁は粘り白く量が多い、臭いはない。頭重感、めまい、自汗、悪風、息切れ、話すのがおっくう（懶言）、声に力がない、咳嗽。舌淡苔薄白、脈緩弱。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
上 星	督 脈	通利鼻竅	前髪際を入れること 1 寸、正中線上に取る。
迎 香	大腸経		鼻孔の外 5 分、鼻唇溝中にとる。
肺 兪	膀胱経	補益肺気	第 3・4 胸椎棘突起間の外 1 寸 5 分にとる
太 淵	肺 経		手関節前面横紋の橈側端の陥凹部、動脈拍動部にとる
太 谿	腎 経	補腎助肺	内果の最も尖ったところの高さで、内果とアキレス腱の間

4. 脾気虚

[症 状] 鼻汁は粘り白く量が多い、臭いはない。食欲不振、腹部膨満感、倦怠無力感、息切れ、消瘦、懶言、泥状便。舌淡苔白、脈緩弱。

[処方例]

	経 絡	意 義	取 穴 部 位
対症選穴	***	****	* * * * * * * * * *
足三里	胃 経	補中益気	膝を立て、外膝眼穴の下3寸に取る
中 腕	任 脈		神闕穴の上4寸に取る
太 白	脾 経		足の第1中足指節関節の後、内側陥凹部に取る
三陰交	脾 経		内果の上3寸、脛骨内側縁の骨際を取る
脾 俞	膀胱経		第11・第12胸椎棘突起間の外1寸5分を取る